

私にも
言わせて!
第7回

悩んだときに思い浮かんだのは
「公衆衛生は人脈が命」という言葉



沖縄県八重山福祉保健所保健総括兼健康推進班長
糸数 公
平成2年自治医科大学卒。臨床研修後2か所の離島診療所勤務を経て、9年より、沖縄県コザ保健所に勤務。その後は、保健所、県庁（健康増進課結核感染症班長）を経て、22年から現職

沖縄県の保健所は戦後の米軍占領下において設置され、性病や結核の診断・治療を担う場として地域の公衆衛生の向上に寄りました。そのような時代背景もあって、保健所には原則として複数の医師が配置されており、他県に比べて「保健所長以外の公衆衛生医師」として過す期間が長くなるという特徴があります。気がつけば、私もそのようなポストで15年間仕事をしてきました。この機会に、簡単にこれまでの活動を振り返り、ご紹介いたします。

離島診療所の外には多くの患者予備軍がいると気づき…

私は平成2年に自治医科大学を卒業し、出身県の沖縄県立中部病院で2年間の臨床研修を経た後、沖縄県内の2か所の離島診療所で各2年ずつ勤務しました。島で唯一の医者ということで、基本的には全科の患者を診ましたが、対応できない場合は親病院に紹介し、重症患者や急患についてはヘリで別の医療機関に搬送しました。

研修医時代の病院に比べて時間的な余裕はあったものの、観光客も含めた時間外の患者にも対応しなければならぬため、常に拘束

された感覚をもちながら生活していました。公民館長から「島民全体の健康を守ってください」と言われましたが、日常の診療は1日10名程度の慢性疾患の外来が中心で、ふだん診療所には顔を見せない働き盛りの男性が突然脳梗塞で倒れて運びこまれるようなことがあると、診療所に座っているだけでは公民館長の期待に応えることは難しいと感じていました。

そんななか、駐在している保健師と一緒に地域を訪問して、島民に対して健康教育などを行っているうちに、患者として診療所を受診しているのは一部の有症状者で、

「地域づくり型保健活動」でヘルスプロモーションの展開

9年春から、沖縄県コザ保健所に勤務しました。臨床から公衆衛生の道に進むにあたり、家族や親類から「保健所に行って、何するの？ 犬捕まえるの？」と言われたことに寂しさを覚えた記憶があります。当時の保健所は地域保健法の施行により、3歳児健診などの業務が市町村へ移行した時期だったので、県民に接する機会が減ったことでベテラン保健師に「昔はよかったよ、先生」と何度もつぶやかれました。

私は保健所3人目の医師として業務を引き継ぎましたが、それは「地域づくり型保健活動」の手法を通して、ヘルスプロモーションを展開するというものでした。これは、住民とともに「あるべき姿」を描き、それを達成するための条件を検討していくという方法で、何度も住民とグループワークを重ねていきました。その後の保健活動とも呼ばれました。健康日本21、健やか親子21、SARS対策、次世代育成支援、医療費適正化計画、国から次々と示される課題に市町村や関係機関が対応できるように、支援や情報提供を行いました。

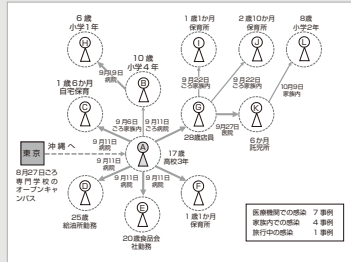
国の動向が変化するなかで、どのように業務に取り組んでいけばいいのかと悩んだときは、同じく保健所で働く公衆衛生医師や全国各地で先駆的な公衆衛生活動を行っている方々の取り組みを参考に

しました。「公衆衛生は人脈が命」と先輩に教えられましたが、正にそのとおりだと実感しています。18年秋には、当時私が勤めていた北部保健所管内で1例の輸入例をきっかけに、感染が拡大した麻疹患者12例に対応し、1000名以上の接触者に対して追跡調査を行うというアウトブレイクも経験しました(図)。

新型インフルの対応や慣れない事務などをして

11年には、当時はまだ東京都にあった国立公衆衛生院で、1年間学ぶ貴重な機会に恵まれました。前半3か月は全国から集まった通

図 麻疹患者12例の感染の広がり様子



基地内の新型インフルエンザ発生時の対応への協力により、米軍から感謝状をもらった

称「保健所長コース」の仲間たちとともに学び、議論しました。4か月以降は、保健師や技師などとチームを組んでの合同臨地訓練、自分の研究課題も教官の指導を受けながら取り組みました。国立公衆衛生院での学びは、公衆衛生の仕事をするうえで、とても意義深いものとなりました。19年からは3年間県庁の結核感染症対策班長として勤務しました。県庁では議会対応、予算確保などの慣れない事務も行いながら、新型インフルエンザ行動計画の改訂などを行い、九州・山口9県の担当者と協力して対応ハンドブックの作成など、新型インフルエンザの準備に追われた2年間でした。

21年4月に新型インフルエンザ(H1N1)が発生し、担当班長として検疫への協力、医師会や米軍などの関係機関との調

日常業務における情報と公衆衛生ブログにまとも

日常業務で関連情報や文献をインターネットで検索することが多く、同じテーマで検索を繰り返すことも少なくありません。そこで、自分が検索した履歴をどこかに残しておけば、効率がよくなるのではないかと考えて、ブログに書き留めておくことにしました(<http://rokazucocolog-nifty.com/oyake/>)。

この公衆衛生ブログは「oyake」というタイトルで、平成15年12月にスタート以来、記事数は1100件を超えました。最初は自分の情報整理のために始めたもので、特に周知させようとはしていませんでしたが、しだいに読者も増え、多くの公衆衛生関係者ともブログを通じた交流ができるようになりました。平日は約2000名がサイトを訪れ、通算アクセス数が72万PVを超えました。よく読まれた記事は「知って？ 下痢と生理のメカニズム」赤ちゃんがタバコを食べたらどうする?」「如才なきことながら「小児結核の特徴」多数出る遺体の処理に関する考え方(WHO)」などです。

新型インフルエンザ対策にあたっての際の記事(多くは泣き言)をまとめた「D&G」で振り返る新型インフルエンザは、個人的にも気に入っています。日常の疑問について調べたことを書き留め、個人の意見を述べるといふ単純な内容ですが、あくまでも自分の業務に生かすために記録に残すというスタイルを守り、マイペースで書き、継続していきたいと思います。